考える テーブル

てつがくカフェ

てつがくカフェとは？

「てつがくカフェ」は、わたしたちが普段、当たり前だと思っている事柄から、いったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いとして投げかけます。そして、ゆっくりお茶を飲みながら対話をし、自分の考えを逞しくすることの難しさや楽しさを体験するものです。

https://www.smt.jp/projects/cafephilo/

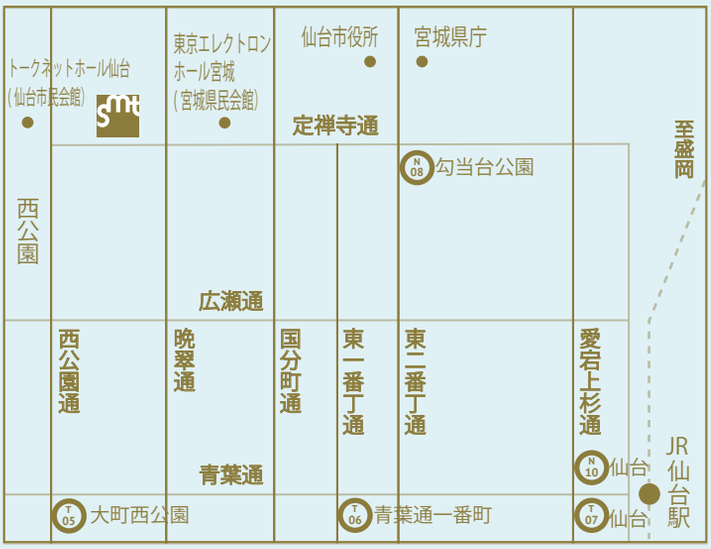
「てつがくカフェ」で行われるさまざまなイベントのスケジュールやこれまで開催されたイベントのレポートを閲覧できます。

3がつ11にちをわすれないためにセンター

当センターでは、市民、専門家、アーティスト、スタッフが協働し、復旧・復興のプロセスを独自に発信、記録していきます。さまざまなメディアの活用を通じ、情報共有、復興推進に努めるとともに、収録された映像、写真、音声、テキストなどを「震災の記録・市民協働アーカイブ」として記録保存します。

助成：一般財団法人　地域創造

せんだいメディアテーク
仙台市青葉区春日町 2-1
022-713-4483



※この用紙はリサイクルできます

「てつがくカフェ」は、普段当たり前だと思っている事柄について「そもそもそれって何なのか」と問い直し、参加者同士で「対話」を重ねることで、考えることの難しさや楽しさを体験するものです。今回は「3がつ11にちをわすれないためにセンター」が企画する「星空と路」の関連イベントとして、2011 年から陸前高田で記録を行ってきた小森はるか＋瀬尾夏美のアート・ユニットによるプロジェクト「二重のまち／交代地のうたを編む」の映像記録とそこに参加した若い旅人の声から、継承について考えます。

第70回テーマ

「二重のまち／交代地のうたを編む」の映像記録から継承を考える

＊13:00-14:00に映像記録を上映します。また、上記作品出演者の古田春花・坂井遥香・三浦碧至・米川幸リオンもてつがくカフェに参加します。

2019年3月31日（日）13:00-17:30
せんだいメディアテーク 7f スタジオ a
申込不要・参加無料・直接会場へ

主催：てつがくカフェ＠せんだい／せんだいメディアテーク
お問い合わせ：mmp0861@gmail.com（てつがくカフェ＠せんだい・西村）

◉ 星空と路ーこれまでの記憶、これからの記録 ー

「星空と路」では、震災にまつわるさまざまな事柄を記録してきた「3がつ11にちをわすれないためにセンター」参加者による、震災から8年をむかえる今の記録や試みを紹介します。

会 期：2019年3月7日（木）－4月21日（日）
　　＊3/12（火）、28（木）は休み
場 所：せんだいメディアテーク
主 催：3がつ11にちをわすれないためにセンター

第70回
「二重のまち／交代地のうたを編む」の映像記録から継承を考える

あたらしいまちの姿が見え始め、かつてのまちの面影が徐々に遠ざかりつつある2018年9月の陸前高田。「二重のまち／交代地のうたを編む」は、私たち、小森はるか+瀬尾夏美のアート・ユニットが同地で行った、まちの人たちと遠くの土地からやってきた若い旅人（＝パフォーマー）が出会い、会話を重ね、風景を共有するための仮設的な場をつくるプロジェクトです。旅人たちは、この土地で編まれた物語『二重のまち』を通じて、15日間の滞在の間で見聞きし、思考したことを発話しようと試みました。

誰かに大切な話を聞いたとき、それを「語らずにはおれない」「誰かに手渡したい」と考えます。しかし人は、その話や話者を大切に感じるほどに、「どうしたら伝わるのか」と思い悩み、語ることをためらったりもします。”誰かに手渡す“ための行動を起こさなくてはならないけれど、それによって何かを失うかもしれない。でも、それでも伝えてみたい。ためらいの連鎖、間違い、誤読、それでも伝えてみること。そして、それを受け取る誰かがいて、何かを考え始めるということ。ちいさな行為や条件の連なりのなかで、”継承“は始まっていくのかもしれません。

私たちは、このちいさな”継承“の始まりを記録し、そこからあたらしいうたを紡ぐための映像作品を制作しました。今回のてつがくカフェでは、滞在期間中に旅人たちが、まちの人たちから聞いた話を自らの言葉で語る”語り直し“の記録映像と今現在の旅人たちの声から、参加者のみなさまと”継承“について考えていきたいと思います。

小森はるか+瀬尾夏美

＊「二重のまち」（作・瀬尾夏美）とは？

「2031年、どこかで誰かが見るかもしれない風景」という副題を持つ短編の物語。嵩上げ工事などで造られた“あたらしいまち”と、はるか地の底になった“かつてのまち”を行き来しながら暮らしを紡ぐ人々の姿が描かれており、実在する人物をモデルとしている。